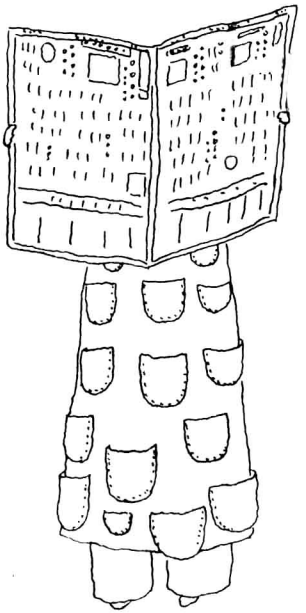
おもしろおかしく

飯沢　匡

山王書房

おもしろおかしく

飯沢 匡



山王書房

おもしろおかしく

（検印省略）

昭和四十三年一月十日発行

定価　三九〇円

著者　飯沢　匡

発行者　泰山哲之

発行所　山王書房

東京都千代田区丸の内三丁目二番地
（新東京ビルヂング）
振替東京一五一六四三番
電話（二一一）三九三一番（代表）

横山印刷／長谷川製本

はしがき

「おもしろおかしく」とは昔の人間の生活態度のひとつであった。特に、威勢のいい江戸児なんぞは、物事を余り深刻に考えず、楽天的に世を過そうということで、このようなモットオをいい出したのであろう。

戦後二十年以上が経ち、日本も高度成長をとげ、世界でも有数な実力国になった。いつまでも青い顔をして、溜息ばかりついていないで生活を楽しむことに思いを致してよかろう。

私がこんなことをいわなくても、先刻みなさんの方がやっていらっしゃるのだが、その「おもしろおかしい」生活の中にも若干、腹の立つこともないわけではない。今回は主として御婦人のために書いた文章をとり集めてみたが、食

に関することが特に多いのは、私が食意地が張ってる証拠であろう。

昭和四十二年晩秋

著　者

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目

次

おもしろおかしく

無精者のための日記……一〇
軽いスキーを使った話……一四
かわいいお人形を……一八
造花のいろいろ……二三
手染めのすすめ……二六
美しい印刷……二九
芝居の楽しみ……三三
雑貨からの掘出しもの……三七
古代仏への親しみ……四一
カメラを怖れるな、誰でも撮れる……四五
無信心者のクリスマス……四九

わたしの食物誌

グリーンサラダ……五四
花にちなむ味……六〇
夏の飲料水……六五
日本のパンと西洋のと……七〇
くだものお国ぶり……七六
松たけ狩りへのあこがれ……八二
かきへのおそれ……八八
おんなとくらし……九三
料理学校を見る……一〇九
香りがあるなら大歓迎……一一三
好味抄……一一五
雑煮急変……一一六

美女モノローグ

八百屋お七……一二三
カルメン……一二五
オフィリヤ……一二八
神功皇后……一三一
かぐや姫……一三四

サイレン……一三七
楊貴妃……一四〇
クレオパトラ……一四四
イ　ブ……一四七
千　姫……一五〇
お　宮……一五三

暮しの気流

私の観光的正月……一五八
しつけ……一六二
叱り方のむずかしさ……一六五
飾るよりみがけ……一六七
色について……一七一
百家争鳴……一七五
動物飼育……一七七
結婚十戒……一八二
物臭太郎の洋服かけ……一八五
バカンス・バカ……一八七
夏祭……一八九
季節の挨拶……一九一
式辞と挨拶……一九三
通夜と花輪……一九五
生活雑感……一九七

折り折りの記

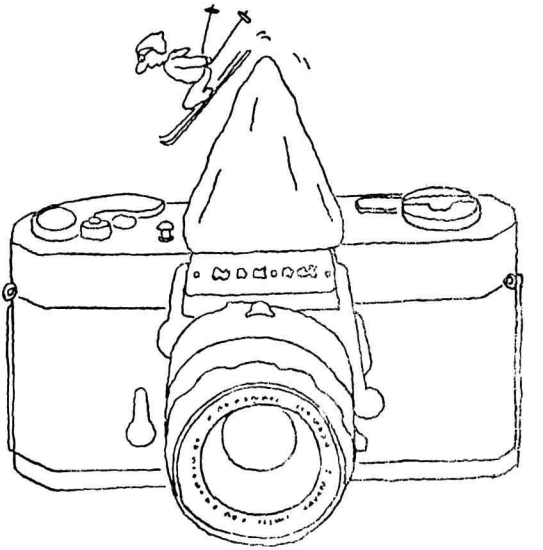
正月今昔……二〇八
不思議の国のアリス……二一一
われ一億分の一……二一三
都電への愛惜……二一六
三十日のふるさと……二二〇
ヤナギの芽に思う……二二二
白馬殿様登山……二二四
電話の便利と不便利……二二七
死の使いを撃退した話……二三〇

ビキニ姿と男のスタイル……二三三
私の新婚旅行……二三六
私のショッピング感想……二三八
もっと笑いを！……二四〇
日本人の郷愁……二四四
ある体験……二四八
きびしい大衆の目……二五一
潮に乗じて投ず……二五三
活字に対する挑戦……二五四
カラーテレビ礼讃……二五七
作品の中の電話番号……二五九
陰惨な消耗品……二六一
TVという名の総合芸術……二六六
表紙・カット　長　新太

未完

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.co

おもしろおかしく



無精者のための日記

正月は日記のつけはじめの月です。私も何度も日記をつけては続きませんでした。あとで広げてみると一番あとで読み度いような時期の日記は空白で退屈極まる日の日記は克明に書いてあります。

つまり日記というものは、よっぽど閑な人が退屈凌ぎに書きつけるもので忙しい人間には無理だと私は覚り、それから日記をつけることはやめにしました。

でも旅に出た時など、あとでどんな所へ行って、どんな物を見て、どんな感想を持ったか、それを思い出し度くなるということはあります。

特に外国へ行くことは、そう滅多にないので帰ってから家の子供などに話して聞かせるにも、やはり少しは、その時の基礎になるような心おぼえがあると記憶をよびおこすのに便利です。

そこで無精者の日記というのを私は考えましたから皆さんに公開しましょう。

私は名案を思いつくと、すぐに人に話してしまう癖があるのですが、その名案が次から次へと

人に伝わり回り回って私に返って来ることがあります。

「いいことを教えてやろう。こうするといいのだよ」といって私の考え出したことを他人から私が教えられるなんて、この世の中にこれほど馬鹿馬鹿しい話はありませんが、新案特許でもとっと置かない限り、そういうことも起り得るのです。

ですから新案特許の代りに、ここへ書きつけて置けば皆さんが証人になってくださるわけで大変に便利です。ですからこれから大いに私の新案や名案をここで公開することに致します。

さて日記に戻りますがその日記は「物による日記」といったらよろしいでしょう。

例えば旅に出たら汽車に乗ります。出来れば切符を物にするといいのですがそれが出来ないなら、交通公社で切符を入れてくれた袋とか、勘定書とか捨てずにとって置きます。

そうそう、先ず日記帳を買わねばならないのでした。しかしこの帳面は絵画材料店へ行くなりデパートの文房具部で大型の無罫のスケッチブックを買うとよろしい。いや、あなた方のおとくいのセクションペーパーのデザインブックでもよろしいでしょう。余り大型だと旅行鞄の中に入らない恐れもありますが、実は旅行中、持って歩くのも一興です。

このブックに何でも記念品を貼り込んで行くのが私の無精者の日記帳です。

「私は新幹線に乗った」という代りに新幹線の座席に置いてあるパンフレットを貼りつけます。

食堂へ行ってコカコーラを飲んだと書く代りに食堂の楊子の紙袋とレシートを貼ります。弁当の包紙もチョコレートの銀紙も、あなたの食欲のほどを如実に示すでしょう。

今の世の中は印刷時代というだけあって、これをやり出すと忽ちブックは様々の意匠の印刷物によって埋められてゆきます。

旅館のマッチ、メニュー、パンフレット、入場券の半券、寺社の解説書、絵葉書、交換した名刺の他に印刷物でないものもあります。

例えば紅葉の一葉とか場合によっては蝶々の羽根、鳥の羽毛。

私はゲテ物を集めている横山隆一氏のために、パリ郊外のゴッホが死んだ下宿屋のトイレットペーパーを持って来たことがありますが、その半分は私のブックのページに貼りつけました。これは私が如何に友情に厚く、外遊中にも隆一さんのコレクションのことを忘れなかったかということをくどくど書くより、ずっと簡単に済むのでそうしたのです。

貼るというと糊を持って歩かねばならぬようにお考えですが、このごろはセロファンテープという便利なものがありますから、あれを極度に利用してどんどん貼ってゆきます。

乗物に乗っている間にも、これなら整理出来ますが私の旅行は乗物に乗っている時も窓から目を皿のようにして眺めて観察するのが好きですから、夜行列車に乗った時は、整理することもあ

ります。

多くは一日の行程を終えて宿屋に帰った時、寝る前にベタベタと順序を追って貼ってゆきます。時には鋏があった方が余分を剪り捨てたりする時に便利なので私は鋏を持ってゆきます。そしてちょっと極く簡単な説明を書きます。

こうして置くと、随分日が経ってからそのブックを見ても実に具体的にありありと当時のことを思い出すものです。

もっとも世の中には観念的な人がいて日記にも専ら気持とか思想ばかり書く人があります。そういう人には、この具体的な物による記憶は意味ないとおっしゃるかも知れませんが、しかしすくなくとも何も痕跡もとどめないのよりは、こんな日記も少しは役に立つと思います。

私はこの方法で「私の食べたもの」というブックも作っています。地方の名産のレッテルやレストランのマッチ、勘定書などからそれは成立っていますが、注文する時にも便利だし、いろいろ楽しく利用しています。

軽いスキーを使った話

スキーの季節が来ました。私は、このごろのスキーは、恐しくって、やる気がしません。その点は車の運転と同じです。ということは、いくらこっちが用心していても、不用心な人にぶつけられたら、もうおしまいだからです。こうなるとスキー場に行かないに限ると敬遠してるわけです。

それにしても、まあ何て足を折る人が多いのでしょう。スキーが、あんな殺バツなものとは私は考えたこともありませんでした。

私がスキーをやったころは、今日のようにリフトなんて便利なものがありませんでしたから、高いところに登るには汗水たらしてエッチラオッチラがに股をして斜面を登ったものでした。そのために、いやが応でも脚力は強くなったといってもよいでしょう。

私は無精者なので余りテクニックを用いることはやめ、もっぱら斜面をスピードをつけて下降する快味、つまりその道の言葉でいうと直滑降を楽しみました。そして絶対にブレーキをかけ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com